



狩江地区の風景

**空き家と
景観活用
事業報告**

かりとりもさくの会について

地域住民と専門家(大学)の協働による

滞在型観光の基礎整備
狩江住民が大学生と一緒に地域の交流拡大について考えました

かりとりもさくの会

大学交流委員会

委員長 毛利 精市



私たちの住む狩江地区は、西予市の南西部の明浜町に位置し、自然に囲まれた、農業(果樹)、漁業(ちりめん、養殖、真珠)が盛んな地域です。少子・高齢化、人口減少が進んでおり、地域有志が会を立ち上げ地域の活力維持に取り組んでいます。

狩江地区は、狩浜地区と渡江地区に分

けられます。会の名称の「かりとり」は狩浜の狩(かり)と渡江の渡(と)を合わせ、さらに五穀豊穡を刈り取り(とり)、模索(もさく)しながら、地域活性化へ繋げて行こうと気持ちが込められています。

ダジャレから発した名称でもあり、「常にユーモアを忘れず、楽しみながら地域づくりをしよう!」という思いも入っています。

新しい知恵を狩江地区に注入する

平成28年度アシスト事業の助成により、東洋大学菅原准教授・ゼミ生をお招きし、住民を交えたワークショップを開催しました。地域の良さを再確認しながら、地域ぐるみで空き家利用に向けて知恵を絞ると共に、空き家を活用しながら交流人口を拡大するアイデアを出し合いました。女性を中心として活動している「まごの会」でも、女性視点で



企画会議の様子

狩江の生活を見直すため、空き家の活用条件についての検討を行いました。また「おらが町のいい所」を再認識するため、守っていききたい景観や、おすすめの見学について語り合い、文化的景観選定へ向けた期待と課題について、住民を交えて意見交換をしました。

地域が獲得した成果

将来は空き家を利活用する組織を立ち上げ、地域活性化に繋げることも検討しなければなりません。今回の取り組みで、幅広い視点から地域の課題を住民同士がワークショップで共有し、自らが地域に貢献出来ることを実感したことや、提供可能な空き家の利用について検討を開始出来たことが、大きな成果であると考えています。また、都市に住む大学の先生、ゼミ生に狩江地区の新たな魅力を発見していただき、大学での講義や学会の講演で狩江地区をアピールしていただくなど、狩江地区の良き理解者になっていただいたことが一番の成果です。今年の秋祭りには大学を卒業したゼミ生達が友人と一緒に遊びに来てくれることが狩江住民にとって何よりの楽しみです。